



図1 顔面骨後前方向X線写真
骨膨隆を伴う境界明瞭な単房性のX線透過像が認められる (⇒)。



図2 顔面骨側方向X線写真
病変内部には粟粒大の石灰化様X線不透過物が存在する (➤)。



図3 パノラマX線写真
単房性病変のX線透過像は下顎右側中切歯から下顎左側第一大臼歯に及び (⇒), 犬歯は下方に位置し病変に隣接する歯は圧排され傾斜している (➤)。



図4 下顎咬合X線写真(軸位像)
皮質骨から連続する唇(頬)側と舌側への著しい骨膨隆を認める (➤)。



図5 CT画像(横断像)
病変内部に犬歯の歯冠と、高吸収物質が環状に散在する (➤)。



図6 摘出物の軟X線写真
病変組織内に多数の石灰化様X線不透過像を認める。